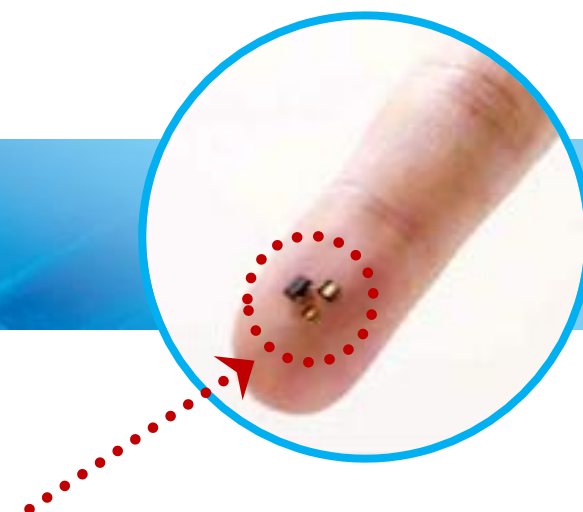


第21期（2016年3月期）決算説明資料



私たちトレックス・セミコンダクターは

小型化・省電力化で

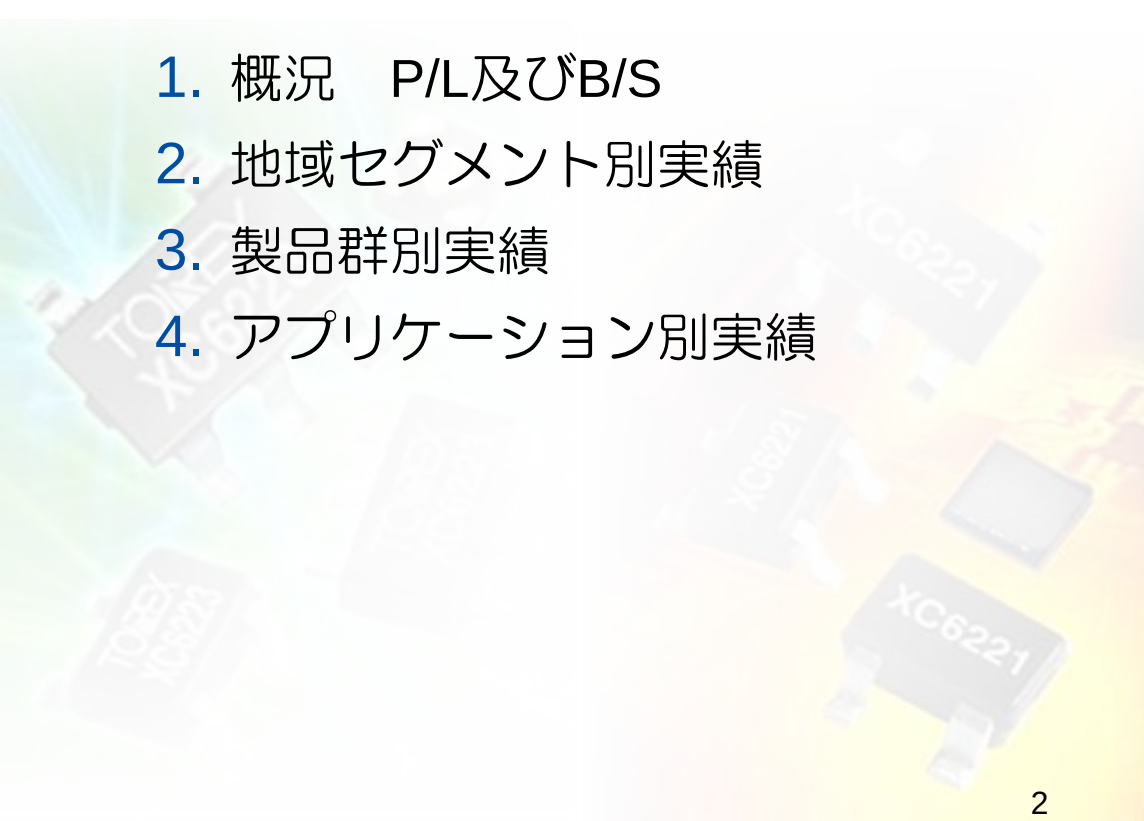
豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献します

2016年5月18日

内容	頁
1. 第21期（2016年3月期）業績	2
1-1. 概況 P/L及びB/S	4
1-2. 地域セグメント別実績	6
1-3. 製品群別実績	8
1-4. アプリケーション別実績	10
2. フェニテックの子会社化	12
2-1. 会社概要（含む業績）	13
2-2. 事業内容	15
2-3. ビジネスモデル	16
2-4. 強み	17
2-5. 子会社化のねらい	18
3. 第22期（2017年3月期）業績予想	20
3-1. 概況 P/L及び主要指標	22
3-2. 地域セグメント別予想	23
3-3. 製品群別予想	25
3-4. アプリケーション別予想	27

内容	頁
4. トピックス	29
4-1. USA R&D Center 開設	30
4-2. 関西技術センター開設	31
5. 資本政策	32
5-1. 配当方針	33
5-2. 子会社が保有する自己株式	34
Appendix	35
A-1. 会社紹介	36
A-2. 季節変動について	38
A-3. 用語解説	39

1. 第21期（2016年3月期）業績

- 
- 1. 概況 P/L及びB/S
 - 2. 地域セグメント別実績
 - 3. 製品群別実績
 - 4. アプリケーション別実績

1	2016年3月期 業績
2	フェニテックの子会社化
3	2017年3月期 業績予想
4	トピックス
5	資本政策

1

車載機器・産業機器向けの売上が堅調に推移
利益率の高い品種の構成比が拡大

2

売上高(+6.5%)の計画未達と経費増額で営業減益

3

期末にかけての為替差損拡大で純利益が縮小

1. 第21期（2016年3月期）業績

1-1. 概況：P/L

- 車載機器・産業機器向けの売上が堅調に推移し増収となりましたが、販管費の増加により営業利益は予想を下回りました。

(単位：百万円)

科目	前年同期	業績予想 (2月12日)	第21期 通期実績	対前年 増減率(%)	第21期 4Q実績	対前年 増減率(%)
売上高	9,971	10,500	10,621	+6.5	2,741	5.9
営業利益	1,350	1,250	1,139	▲15.6	135	▲61.5
経常利益	1,678	1,000	970	▲42.2	▲186	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,247	600	580	▲53.5	▲133	—
平均為替 レート(1\$=)	¥109.8	¥110.0 2016年2～3月	¥120.1	—	¥116.9	—
営業利益率	13.5%	11.9%	10.7%	▲2.8 (ホ° 1/1)	4.9%	▲8.7 (ホ° 1/1)
海外売上高 比率	71.8%	70.6%	70.6%	▲1.2 (ホ° 1/1)	—	—
減価償却費	403	508	441	+38.0	—	—
設備投資	586	600	602	+2.7	—	—
ROE	13.3%	5.4%	5.3%	▲8.0 (ホ° 1/1)	—	—

1. 第21期（2016年3月期）業績

1-1. 概況：B/S

- 業容拡大に向けて開発人員増強に資金を投入しております。

(単位：百万円)

科目	前年度末 実績	第21期 3月末実績	増減率 (%)
流動資産	10,753	10,817	+0.6
固定資産 (*)	2,417	2,155	▲10.8
資産計	13,170	12,972	▲1.5
流動負債	1,886	1,622	▲14.0
固定負債	394	421	+6.9
負債計	2,281	2,043	▲10.4
純資産合計	10,889	10,928	+0.4
負債純資産計	13,170	12,972	▲1.5

科目	前年度末 実績	第21期 3月末実績
有利子負債 (百万円)	111	13
自己資本比率 (%)	82.3	83.9
D/Eレシオ	0.01	0.00
従業員数 (連結)	342	343
従業員数 (単体)	146	160

(*) 有形固定資産は74百万円増加

1. 第21期（2016年3月期）業績

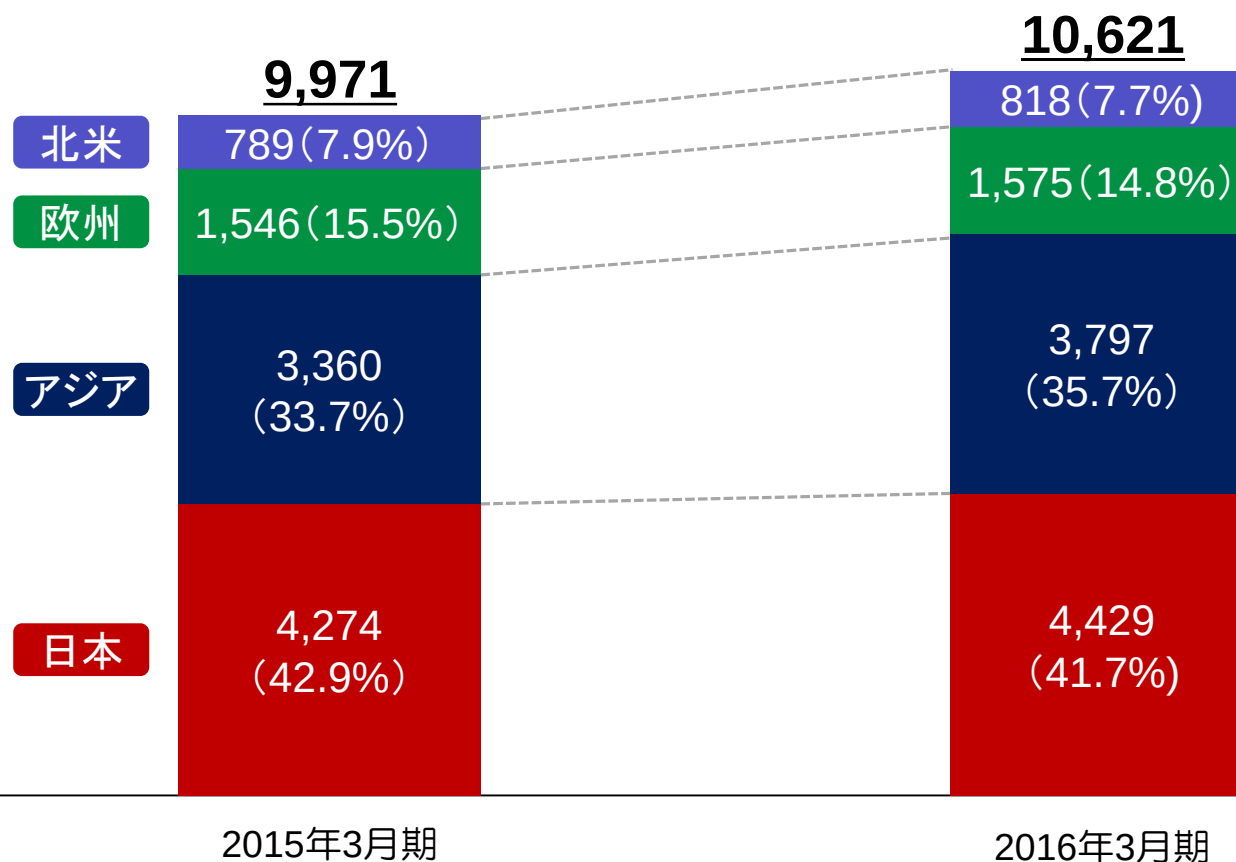
1-2. 地域セグメント別実績

- 車載機器、産業機器向けを中心に全ての地域のD-in売上が伸びました。

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

地域別D-in売上構成

(単位：百万円)



1. 第21期（2016年3月期）業績

1-2. 地域セグメント別実績

(単位：百万円)

	前年同期			第21期 通期実績			前年同期比		
	売上高	営業利益 ⁽¹⁾	D-in ⁽²⁾ 売上高	売上高	営業利益 ⁽¹⁾	D-in ⁽²⁾ 売上高	売上高	営業利益 ⁽¹⁾	D-in ⁽²⁾ 売上高
日本	2,813	1,207	4,274	3,119	1,105	4,429	110.9%	91.5%	103.6%
アジア	5,798	121	3,360	6,042	0	3,797	104.2%	—	113.0%
欧州	707	7	1,546	843	54	1,575	119.2%	771.4%	101.9%
北米	652	14	789	615	▲43	818	94.3%	—	103.7%
連結計	9,971	1,350	9,971	10,621	1,139	10,621	106.5%	84.4%	106.5%

(1)営業利益率：日本以外のセグメントの営業利益は販売子会社のものであり、各地域における収益性は確保しております。

(2) D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

1. 第21期（2016年3月期）業績

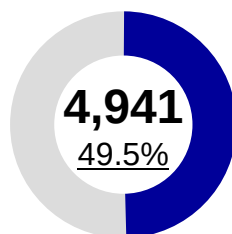
1-3. 製品群別実績

- 利益率の高いDC/DCの売上が増えました。

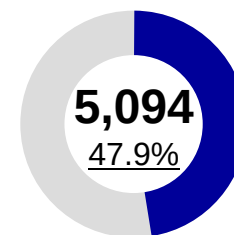
製品群別売上構成

(単位：百万円)

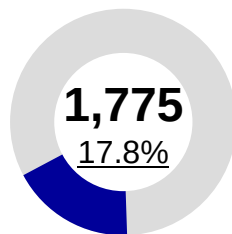
VR



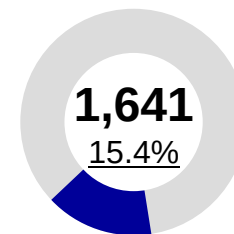
1.6



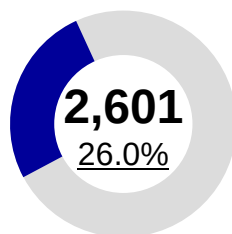
VD



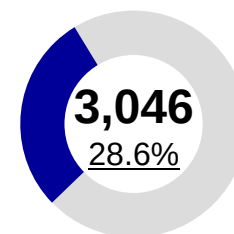
2.4



DC/DC



2.6



2015年3月期

2016年3月期

1. 第21期（2016年3月期）業績

1-3. 製品群別実績

(単位：百万円)

		前年同期		第21期 通期実績		前年同期比	
		売上高		売上高		売上高	
VR	日本	4,941	1,162	5,094	1,153	103.1%	99.2%
	海外		3,779		3,940		104.3%
VD	日本	1,775	560	1,641	594	95.2%	106.1%
	海外		1,215		1,047		86.2%
DC/ DC(*)	日本	2,601	922	3,046	1,217	117.1%	132.0%
	海外		1,679		1,828		108.9%
その他	日本	652	168	839	154	128.7%	91.7%
	海外		484		685		141.5%
連結合計		9,971		10,621		106.5%	

(*) XCL（コイルと電圧・電流制御ICの一体型micro DC/DCコンバータ）の売上をDC/DCに入れて集計しております。

1. 第21期（2016年3月期）業績

1-4. アプリケーション別実績（参考値）

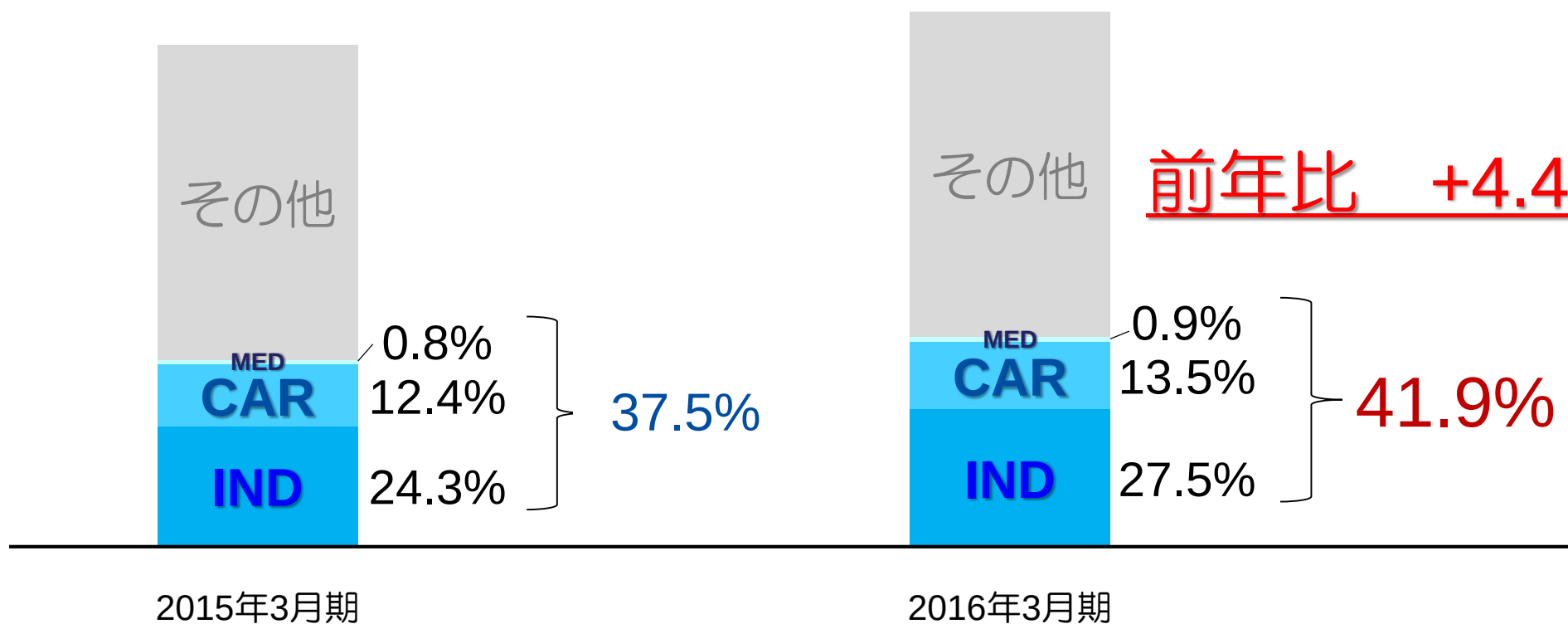
- 産業・車載機器向けの売上高が引き続き好調を維持しております。

アプリケーション別売上構成

IND：産業機器

CAR：車載機器

MED：医療機器



1. 第21期（2016年3月期）業績

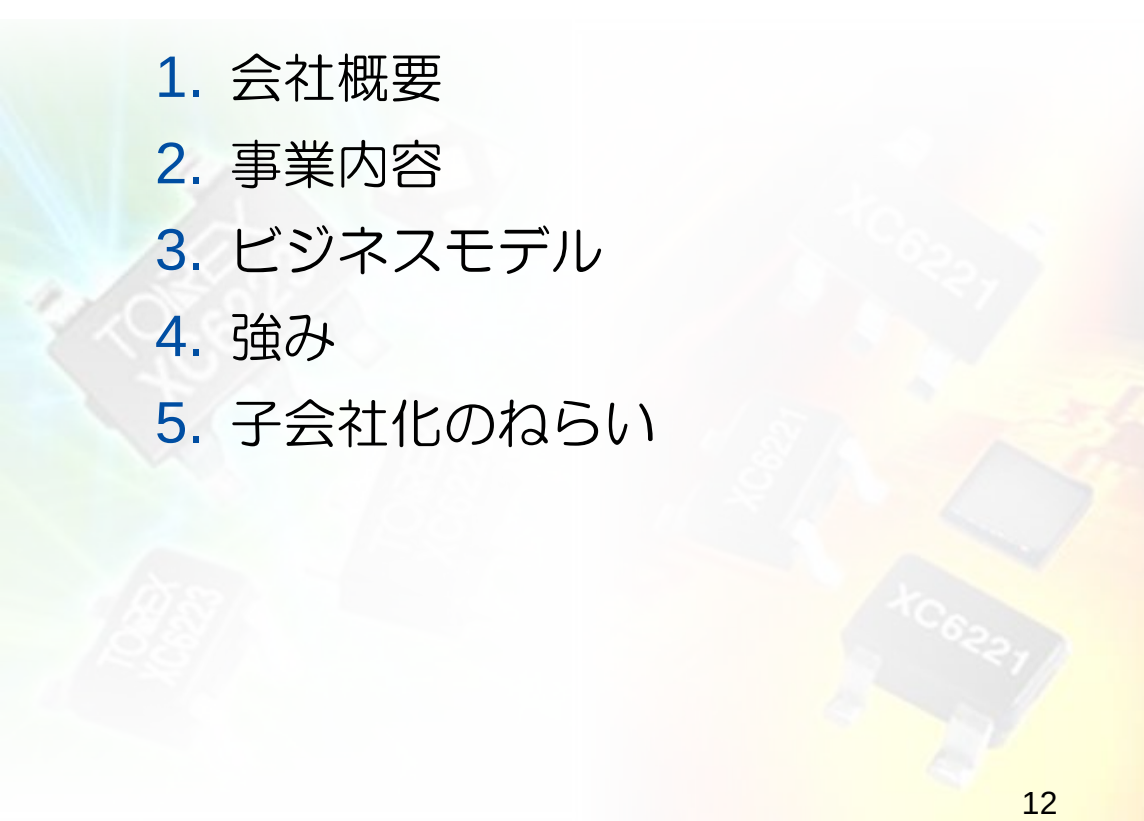
1-4. アプリケーション別実績（参考値）

(単位：百万円)

		前年同期		第21期 通期実績		前年同期比
		売上高	比率	売上高	比率	売上高
IND	産業機器	2,378	23.8%	2,918	27.5%	122.7%
CAR	車載機器	1,241	12.4%	1,429	13.5%	115.1%
AMU	アミューズメント機器	117	1.2%	163	1.5%	139.3%
PC	PC/PC周辺機器	1,212	12.2%	895	8.4%	73.8%
COM	コミュニケーション機器	712	7.1%	423	4.0%	59.4%
AV	デジタル家電機器	1,847	18.5%	1,843	17.4%	99.8%
ENE	充電機器	68	0.7%	83	0.8%	122.1%
HOM	家電/健康機器	713	7.2%	624	5.9%	87.5%
MED	医療機器	87	0.9%	96	0.9%	110.3%
WEA	ウェアラブル機器	80	0.8%	120	1.1%	150.0%
OTHER	その他機器	1,509	15.1%	2,023	19.0%	134.1%

注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2. フェニテックの子会社化

- 
- 1. 会社概要
 - 2. 事業内容
 - 3. ビジネスモデル
 - 4. 強み
 - 5. 子会社化のねらい

1 2016年3月期 業績

2 **フェニテックの子会社化**

3 2017年3月期 業績予想

4 トピックス

5 資本政策

2. フェニテックの子会社化

2-1. 会社概要 (1/2)

- 国内唯一の半導体チップ受託製造専門メーカーです。

本社



第一工場

海外営業本部
京都デザインセンター



鹿児島工場

Phenitec...fast and focused!

所在地 岡山県井原市木之子町150番地

代表者 代表取締役社長 伊中 正佳

資本金 3億8千万円（2016年3月31日現在）

事業内容 半導体素子、半導体製品製造

従業員数 650名

沿革	昭和43年10月	シンコー電器株式会社設立
	平成2年8月	第一工場完成
	平成10年10月	社名を「フェニテックセミコンダクター株式会社」に変更
	平成14年8月	京都デザインセンター設置
	平成27年10月	ヤマハ鹿児島セミコンダクタ譲受

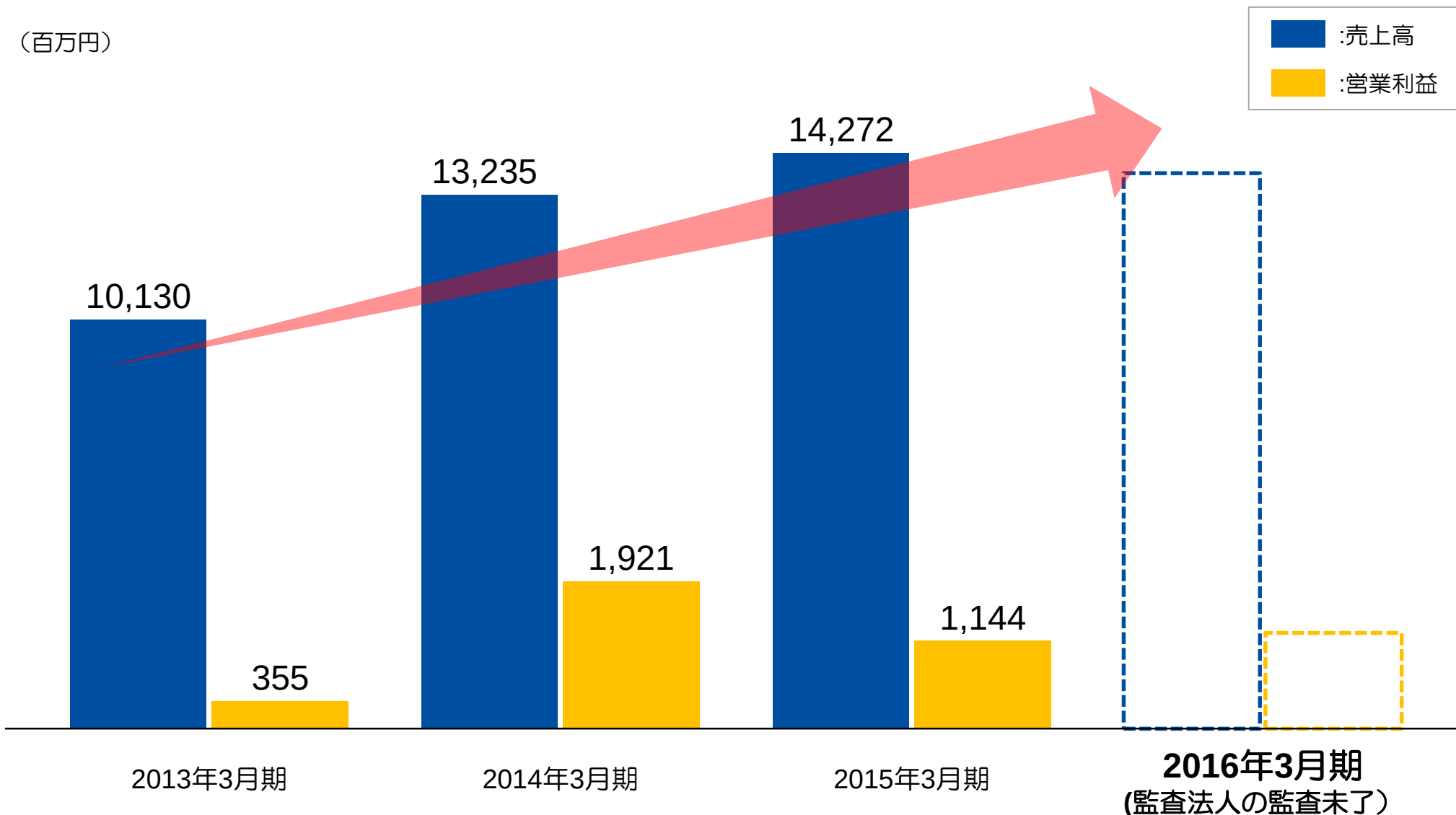
平成28年4月 当社の子会社となる

2. フェニテックの子会社化

2-1. 会社概要（2/2）

- 2016年3月期は前年同期並みの売上、営業利益になる見込です（監査未了）。

（百万円）



2-2. 事業内容

- お客様の要求に合った、低コスト・高品質製品を実現できるよう、総合的ファンドリー（前工程の製造受託）サービスを提供しております。

前工程（ファンドリーサービス）

生産				部分加工
自社開発品 =オリジナル製品		生産受託品 =カスタム製品		シリコン微細加工
既存製品を 提案/提供	お客様の 要望にあわせて カスタム製品を 開発/提供	自社保有の プロセスを利用し お客様設計製品を 生産	お客様から プロセスと設計を 移管して頂き、 お客様製品を生産	WAFER生産の 一部を 加工処理

顧客のニーズに基づいたファンドリーソリューションを
提供することで低コスト・高品質の製品を実現

2. フェニテックの子会社化

2-3. ビジネスモデル

- 製品のセミカスタムや少数注文への対応、WAFERの微細な加工サービス等を展開しており、多くのお客さまに多品種の注文を継続的にいただいております。

提供サービス	オリジナル製品ファンドリー	カスタム製品ファンドリー	シリコン微細加工
製品・サービス詳細	MOS FET IGBT Bipolar Transistor Diodes TVS SiCデバイス（開発中）	MOS FET Bipolar Transistors JFET Diodes IGBT Laser diode Bipolar IC CMOS IC MEMS (加速度センサ) TVS	レーザトリミング Wafer Test & Probe 裏面加工処理 ダイシング
特徴	多品種		部分加工も対応
	少量注文に対応		

多くのお客さまに長く使われる

2-4. 強み

- 創業以来培ってきたファンドリー技術を駆使し、日本基準の高品質製品を世界へ安定的に供給しております。

技術

48年間で磨いてきたWAFER製造の固有技術やプロセス管理能力で、生産コストを抑えながらお客さまの細かいリクエストにも対応した製品づくりを実現しております。

品質

国際規格を含め、国内外の高い品質要求水準にも対応できる生産体制を整え高品質の製品を世に送り出しております。

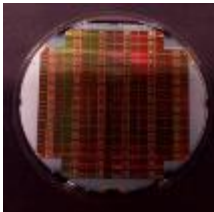
立地

地震・台風等の自然災害が少ない岡山県は鉄道、高速道路、空路のアクセスもよく、国内のお客さまはもちろん海外のお客さまにも製品を安定的に供給しており、加えて、鹿児島工場も十分な耐震対策が施されており、安心して製品の安定供給ができます。

2. フェニテックの子会社化

2-5. 子会社化のねらい (1/2)

- ファブレス型事業形態を維持しつつ、製造パートナーをグループ内に取り込み、前工程の自社所有とファブレスのメリットを併せ持つ生産体制を整えます。

		Quality	Cost		Delivery	
		製造技術 /品質	原価	投資額	納期	新規プロセス 対応期間
前工程	概要					
	 シリコン基板に 回路を作り込む					
選択肢	自社 所有	○	△	×	○	×
	ファブ レス	△	○	○	△	○

高付加価値製品を長期安定供給できる企業へ

2. フェニテックの子会社化

2-5. 子会社化のねらい（2/2）

- 両社が長期的な視野で協同する体制を構築することによって、当社グループの成長機会の拡充と中長期的な企業価値の拡大が期待できます。

開発 設計

新製品の企画段階から製造方法や生産管理手法を含めた協力体制を敷き、製品量産までを効率よくすすめる

量産

- 必要に応じて製造キャパシティの整備や調整に柔軟に対応する
- 工場関連の各種認定制度に対応した品質管理・保証体制強化に協力する

顧客 対応

豊富な製品群でソリューション提案の幅を広げる

当社が注力している車載・産機・
IOT機器向け製品を長期・安定的
に供給することが可能

注意：以下の予想はフェニテックセミコンダクター(株)の子会社化を考慮しない場合の予想数値であります。

3. 第22期（2017年3月期）予想

1. 概況 P/L及び主要指標
2. 地域セグメント別予想
3. 製品群別予想
4. アプリケーション別予想

1 2016年3月期 業績

2 フェニテックの子会社化

3 2017年3月期 業績予想

4 トピックス

5 資本政策

当社は平成28年4月1日をもってフェニテックセミコンダクター株式会社を子会社化（議決権所有割合51.0%）しました。

現在、当社グループの会計基準への適合及び連結会計処理に伴うのれんの算定に関わる作業を慎重に進めておりますが、子会社化に伴う影響について未確定な要素が多く、現時点では数値で示すことが困難な状況です。その為、子会社化が業績に与える影響は、平成29年3月期の連結業績予想に含めておりません。

業績への影響を含めた連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が可能となり次第、速やかに公表させていただく予定です。

3. 第22期（2017年3月期）業績予想

3-1. 概況：P/L及び主要指標

- 開発力強化に向けた販管費増加により増収減益の見通しです。
（フェニテックの子会社化を考慮しない場合の予想数値です。）

（単位：百万円）

科目	前年同期	第22期 上半期予想	前年同期	第22期 通期予想
売上高	5,330	5,200	10,621	11,000
営業利益	745	150	1,139	750
経常利益	762	150	970	700
親会社株主に帰属 する当期純利益	519	30	580	500
平均為替 レート(1\$=)	¥121.5	¥110.0	¥120.1	¥110.0
営業利益率	14.0%	2.9%	10.7%	6.8%
海外売上高 比率	72.9%	68.8%	70.6%	69.6%
減価償却費	200	225	403	468
設備投資	319	426	567	530
ROE	4.7%	0.3%	5.3%	4.5%

3. 第22期（2017年3月期）業績予想

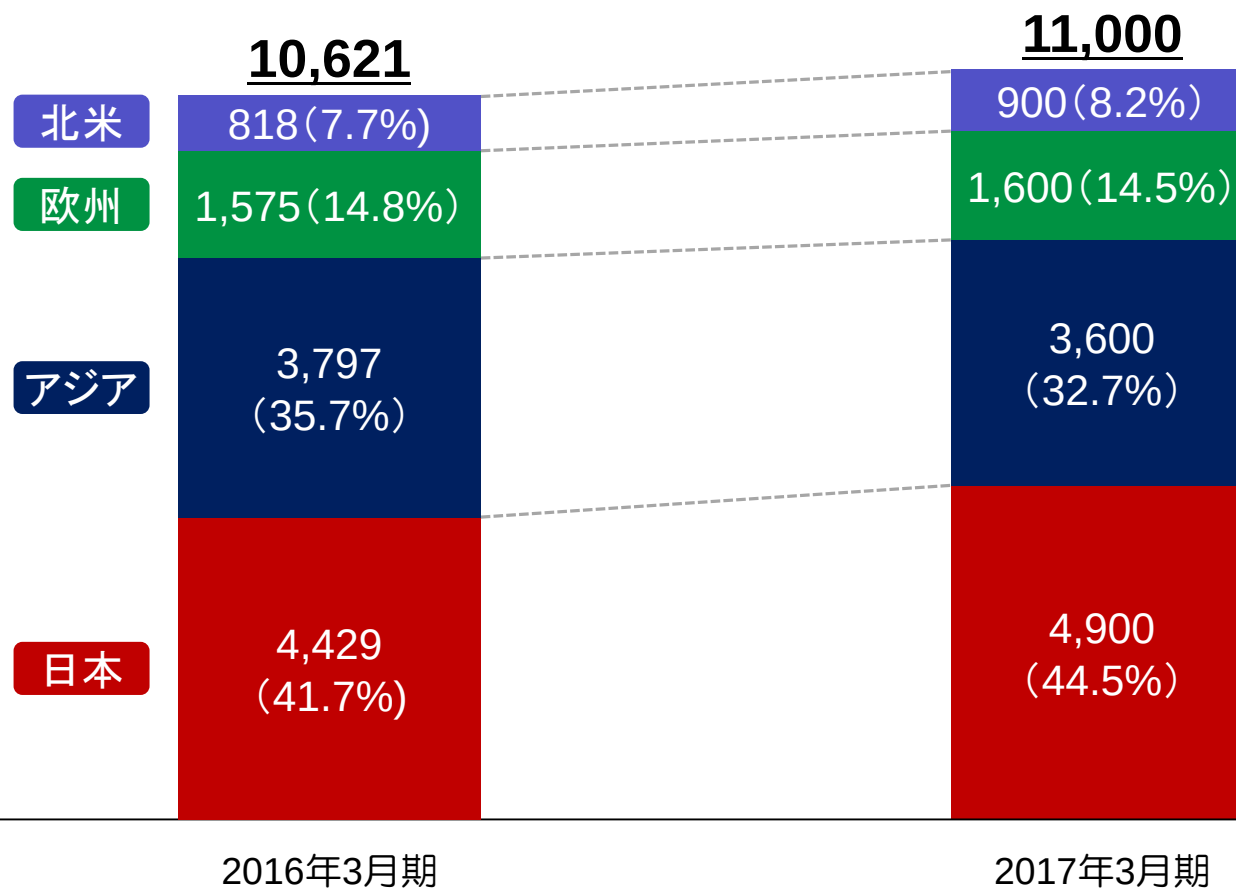
3-2. 地域セグメント別予想

- アジアを除く全ての地域のD-in売上が上がる見込です。

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

地域別D-in売上構成

(単位：百万円)



3. 第22期（2017年3月期）業績予想

3-2. 地域セグメント別予想

- ・フェニテックの子会社化を考慮しない場合の予想数値です。

(単位：百万円)

	前年同期			第22期 業績予想			前年同期比		
	売上高	営業利益 ⁽¹⁾	D-in ⁽²⁾ 売上高	売上高	営業利益 ⁽¹⁾	D-in ⁽²⁾ 売上高	売上高	営業利益 ⁽¹⁾	D-in ⁽²⁾ 売上高
日本	3,119	1,105	4,429	3,300	550	4,900	105.8%	49.8%	110.6%
アジア	6,042	0	3,797	6,300	140	3,600	104.3%	—	94.8%
欧州	843	54	1,575	800	40	1,600	94.9%	74.1%	101.6%
北米	615	▲43	818	600	20	900	97.6%	▲46.5%	110.0%
連結計	10,621	1,139	10,621	11,000	750	11,000	103.6%	65.8%	103.6%

(1)営業利益率：日本以外のセグメントの営業利益は販売子会社のものであり、各地域における収益性は確保しております。

(2) D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

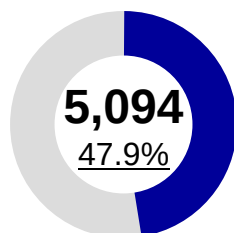
3-3. 製品群別予想

- 2016年3月期に引き続き、DC/DCが売上アップに貢献すると予想しております。

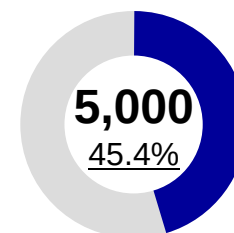
製品群別売上構成

(単位：百万円)

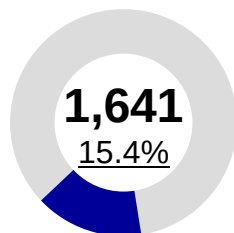
VR



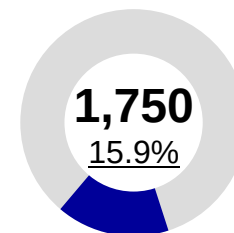
2.5



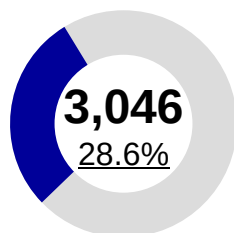
VD



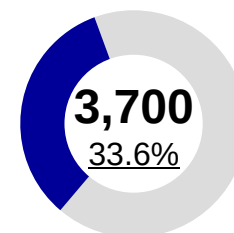
0.5



DC/DC



5.0



2016年3月期

2017年3月期

3. 第22期（2017年3月期）業績予想

3-3. 製品群別予想

- ・フェニテックの子会社化を考慮しない場合の予想数値です。

(単位：百万円)

		前期 実績		第22期 予想		前年同期比	
		売上高		売上高		売上高	
VR	日本	5,094	1,153	5,000	1,250	98.2%	108.4%
	海外		3,940		3,750		95.2%
VD	日本	1,641	594	1,750	700	106.6%	117.8%
	海外		1,047		1,050		100.3%
DC/ DC(*)	日本	3,046	1,217	3,700	1,270	121.5%	104.4%
	海外		1,828		2,430		132.9%
その他	日本	839	154	550	130	65.6%	84.4%
	海外		685		420		61.3%
連結合計		10,621		11,000		103.6%	

(*) その他にはXCL（コイルと電圧・電流制御ICの一体型micro DC/DCコンバータ）が含まれております。

3. 第22期（2017年3月期）業績予想

3-4. アプリケーション別予想（参考値）

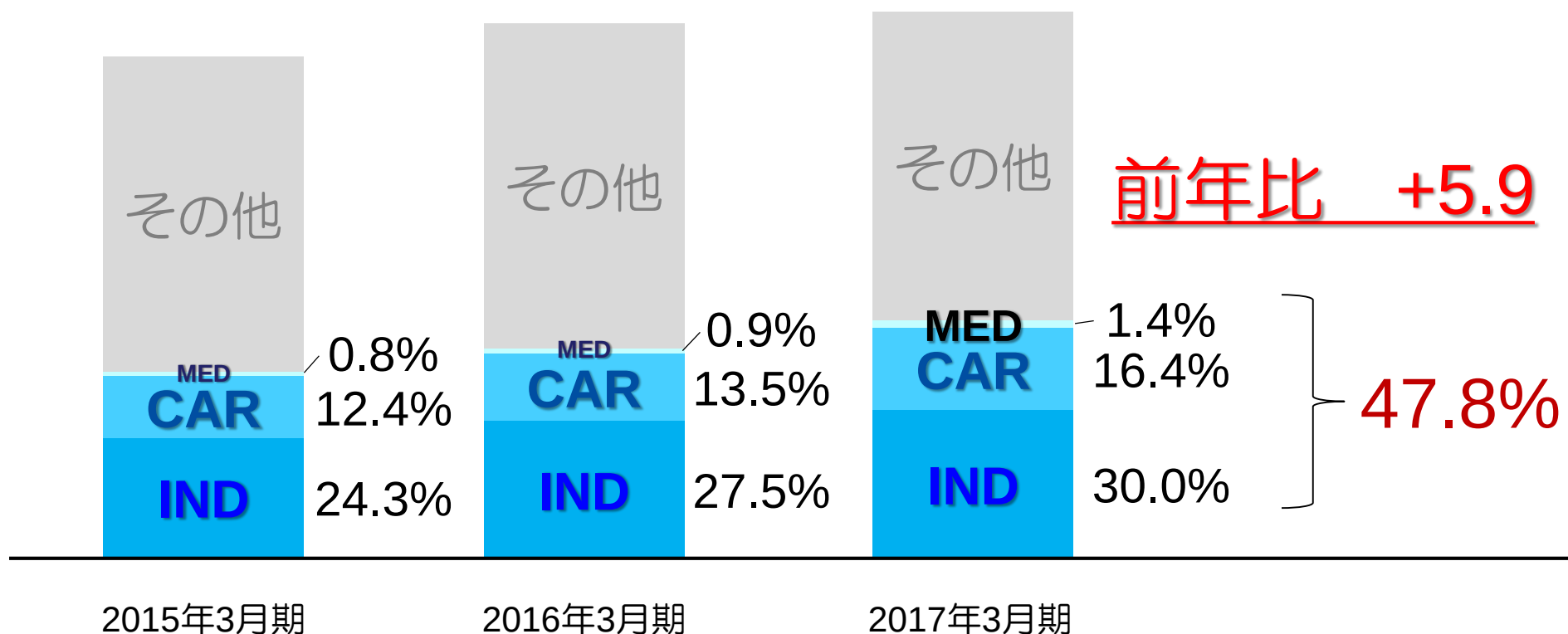
- 重点分野の売上高は引続き拡大し、産業機器・車載機器・医療機器向けの売上高構成比は47%程度となる見込です。

アプリケーション別売上構成

IND：産業機器

CAR：車載機器

MED：医療機器



3. 第22期（2017年3月期）業績予想

3-4. アプリケーション別予想（参考値）

- ・フェニテックの子会社化を考慮しない場合の予想数値です。

（単位：百万円）

		前期		第22期予想		前期比
		売上高	比率	売上高	比率	売上高
IND	産業機器	2,918	27.5%	3,300	30.0%	113.1%
CAR	車載機器	1,429	13.5%	1,800	16.4%	126.0%
MED	医療機器	96	0.9%	150	1.4%	156.3%
WEA	ウェアラブル機器	120	1.1%	450	4.1%	375.0%
OTHER	その他機器	6,054	57.0%	5,300	48.2%	87.5%

注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

4. トピックス

1. TOREX USA Corp. R&D Center開設

2. 関西技術センター開設

1 2016年3月期 業績

2 フェニテックの子会社化

3 2017年3月期 業績予想

4 トピックス

5 資本政策

4. トピックス

4-1. TOREX USA Corp. R&D Center開設

- 米国子会社 TOREX USA Corp. の研究開発拠点をシリコンバレーに開設しました。



狙い

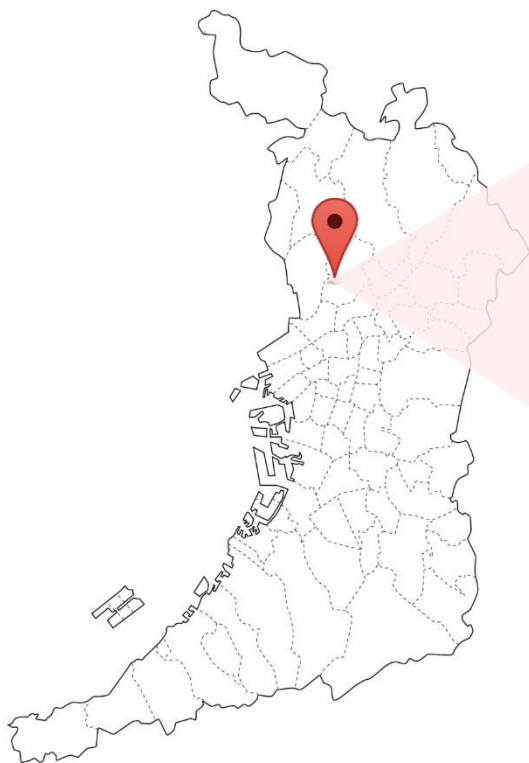
最新の技術と優れた人材を研究開発に活かすとともに、シリコンバレーに集結した最先端企業との協業を強化することによって、当社グループの次世代を担う高付加価値製品の開発を進めます。

名称	TOREX USA Corp. R&D Center
所在地	アメリカ合衆国カリフォルニア州 サニーベール市
開設年月	平成28年4月
開設形態	TOREX USA Corp. の研究開発用 オフィスとして開設

4. トピックス

4-2. 関西技術センター開設

- 車載機器向けの製品開発から製品保証までを一貫する、関西技術センターを開設しました。



名称	関西技術センター
所在地	大阪府吹田市江坂町1丁目9番23号
開設年月	平成28年4月

狙い

車載機器向けの製品開発に重点を置き、インフォテインメント、車載カメラ、ボディー系等の用途に適した高性能アナログ電源ICの製品開発に取り組めます。

5. 資本政策

1. 配当方針

2. 子会社が保有する自己株式

1 2016年3月期 業績

2 フェニテックの子会社化

3 2017年3月期 業績予想

4 トピックス

5 資本政策

戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元の拡充として株主資本配当率（DOE）3%程度を当面の目標として実施してまいります。

5-2. 子会社が保有する自己株式

フェニテックが保有している当社の株式：1,760,000株（16.52%）

フェニテックが保有している当社株式につきましては、
相当の時期に当社が自己株式として取得する予定であります。
取得時期は、決定次第開示させていただきます。

Appendix

A-1. 会社紹介

(1) 概要

- 2014年4月にJASDAQスタンダード市場に上場、その1年後の2015年10月に東証二部に上場した、創業21年の半導体メーカーです。

アナログのチカラ

ABOUT TOREX

所在地	東京都中央区新川1-24-1 秀和第2新川ビル
代表者	代表取締役会長 藤阪 知之 代表取締役社長 芝宮 孝司
資本金	18億1958万円（2016年3月31日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：160名 / グループ：343名
上場証券取引所 及び上場日	東京証券取引所 市場第二部 2015年10月15日
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



A-1. 会社紹介

(2) 事業内容

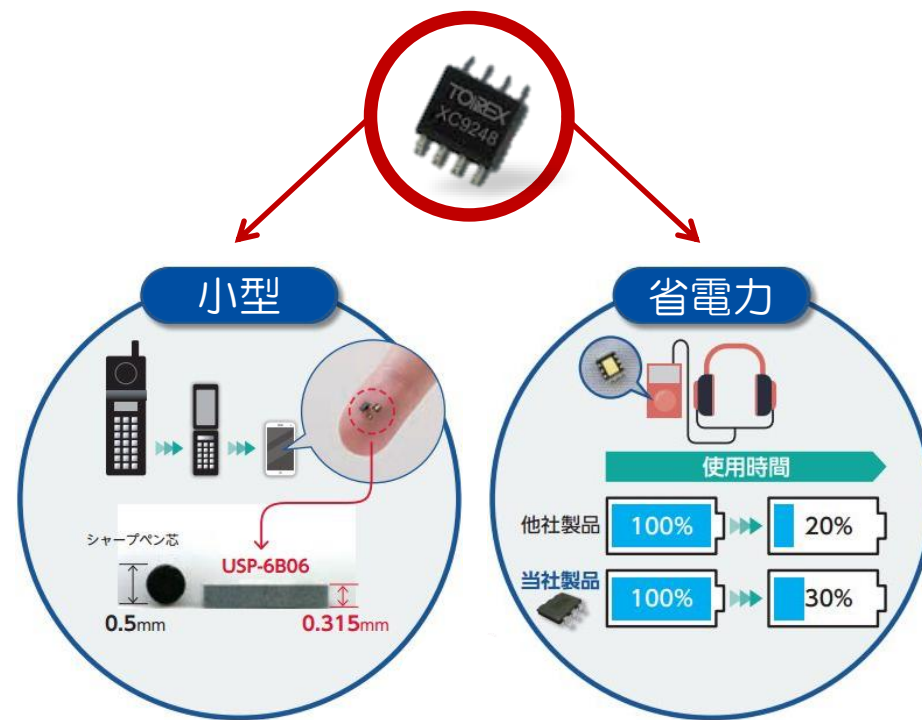
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

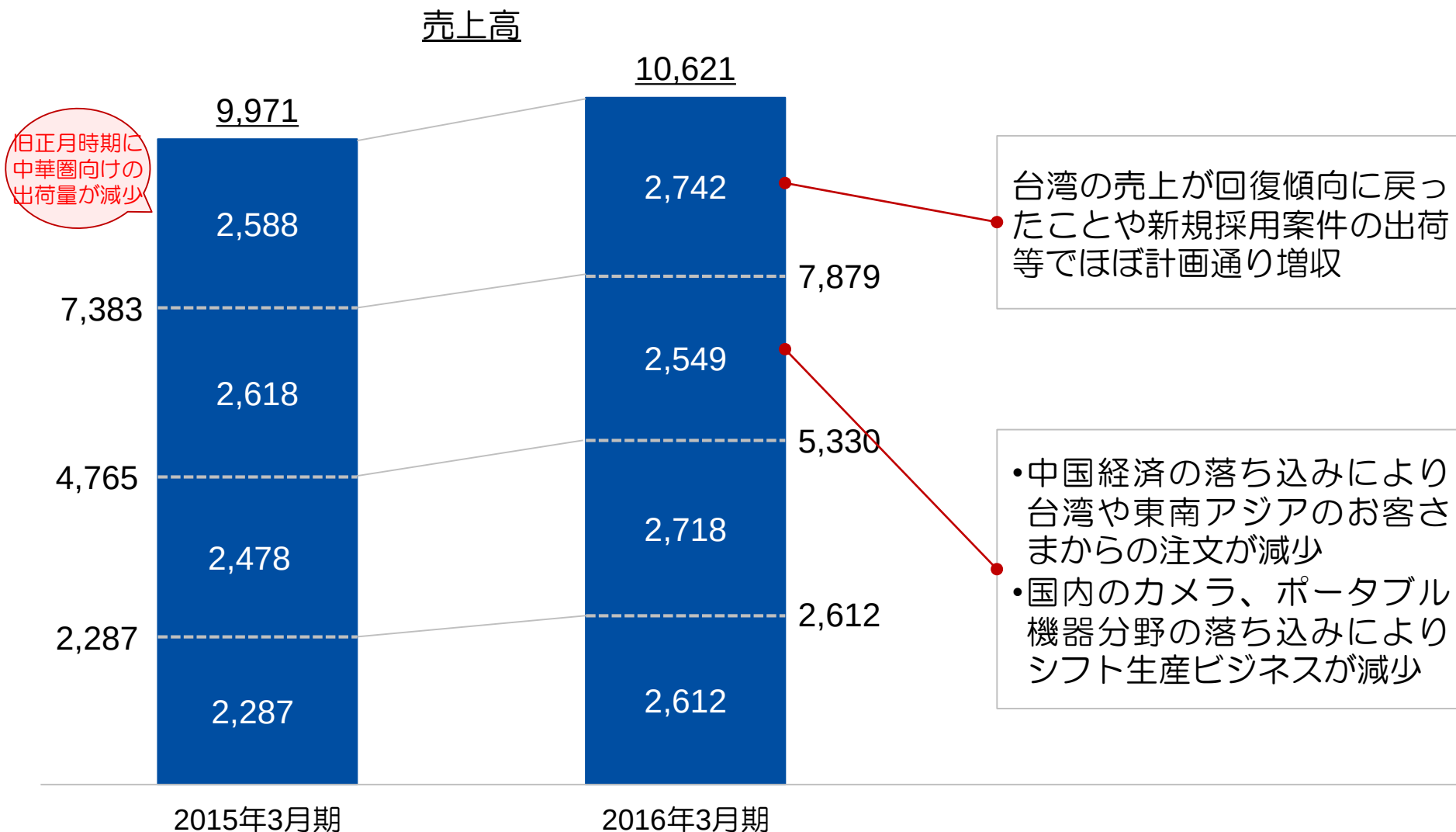
TOREXの電源IC



独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

A-2. 季節変動について

- 例年、第1四半期から第3四半期にかけて徐々に上がり、第4四半期に少し落ち込む傾向がありますが、2016年3月期は違う動きをみせました。



D-in 売上高	デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高
VD	Voltage Detectorの略（電圧検出器）。入力電圧を常に監視し、設定電圧以下となった時にアラームを出す
VR	Voltage Regulatorの略（電圧レギュレータ）。入力電圧を希望の出力電圧に変換する
DC/DC	DC/DC Converterの略（ディーシーディーシーコンバータ）。非常に効率的に入力電圧を希望の出力電圧に変換する
アプリケーション	当社の製品が搭載される最終製品
ファンドリー	半導体チップの受託生産を行う企業
ファブレス	自社で生産設備を持たず、外部に生産委託していること
XCL	コイルと電圧・電流制御ICの一体型micro DC/DCコンバータ

Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること



本資料に記載された内容は、2016年5月18日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。